



～ 思いやる心でつなく～

群馬県立がんセンター

Gunma Prefectural Cancer Center

思いやる心でつなぐ・・・

医 局

診療科紹介 ()内は各診療科医師数(令和元年9月1日現在)

医 療 局

- 消化器内科 (2名)
- 消化器外科 (8名)
- 乳腺科 (4名)
- 頭頸科 (2名)
- 呼吸器内科 (3名)
- 呼吸器外科 (2名)
- 泌尿器科 (4名)
- 婦人科 (5名)
- 血液腫瘍科 (3名)
- 放射線治療部 (3名)
- 放射線診断部 (4名)
- 麻酔科 (4名)
- 臨床検査部 (1名)
- 形成外科 (1名)
- 歯科口腔外科 (1名)
- 緩和ケア科 (2名)
- 腫瘍内科 (1名)
- 骨軟部腫瘍科 (1名)



▲ 手術ロボットダヴィンチ



▲ 腹腔鏡手術



▲ 血管吻合のための再建術

主な治療実績等

主な手術件数(令和4年度)

外科	胸部	138件
	乳腺	419件
	消化器	366件
頭頸科		24件
泌尿器科		623件
婦人科		290件
【参考】ダヴィンチ使用実績		211件
	うち消化器外科	130件
	うち泌尿器科	63件
	うち呼吸器科	18件

放射線治療(令和4年度)

新規治療患者		548人
主な部位別	頭頸部	87人
	肺縦隔	86人
	乳腺	127人
	泌尿器科	114人
	婦人科	71人

総治療患者	560人
新規治療患者	548人
強度変調放射線治療 (IMRT)	122人
定位放射線治療 (SRT・SBRT)	7人
密封小線源治療	31人
非密封小線源治療*	21人

*甲状腺癌・去勢抵抗性前立腺癌骨転移。令和4年度より神経内分泌腫瘍に対するLu-177(ルタテラ注)治療開始。

～群馬県立がんセンターは、患者本位の医療を目指します～

病院概要

がんセンター理念

私たちは、患者さんの意思を尊重するとともに地域と連携し、高度のがん医療を提供します

1. 患者さんの権利と意思を尊重します。

2. 地域と連携し、適切ながん医療を提供します。

3. 教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

基本方針

沿革

昭和30年11月

「群馬県立東毛療養所」として開設

昭和40年4月

「群馬県立東毛病院」に改称

昭和47年4月

「群馬県立がんセンター東毛病院」に改称

平成10年4月

「群馬県立がんセンター」に改称

平成19年5月

新病院開院

平成26年6月

緩和ケア病棟開棟

施設概要

敷地面積 72,678㎡

延床面積 34,504㎡

建物構造（病院棟）鉄筋コンクリート造
7階建て一部3階建て
免震構造
（緩和ケア病棟）木造一部鉄筋コンクリート造
2階建て

病床数
一般病床 314床
（内訳）一般 270床
R I病床 3床
無菌病床 6床
HCU 10床
緩和ケア病床 25床

専門病院入院基本料 (7:1)

緩和ケア病棟入院基本料 (7:1)

統計 (令和3年度)

延べ入院患者数

62,117人(170.2人/日)

延べ外来患者数

101,874人(421人/日)

職員数

令和元年9月1日現在・正規職員数

医師	49
歯科医師	1
薬剤師	16
検査技師	17
放射線技師	20
看護師	237
管理栄養士	2
その他職員	31
計	373

外来

第1外来・第2外来

外来では、患者さんやご家族の方々が安心して在宅生活が送れるように、多職種と連携して治療やケアを継続的に支援したいと考えています。お気軽にお声がけください。

放射線・内視鏡外来

医師、看護師、放射線技師がチームを組んで、患者さんの不安や苦痛を軽減しながら検査、治療を行います。

通院治療センター

通院で可能な抗がん薬治療の全般を行っています。

ベッドは40床で、1ヶ月平均900名以上の方が治療を受けています。

がん薬療法専門医・指導医を持つ専従医師1名、がん専門薬剤師1名、がん化学療法看護認定看護師1名が所属し、がん薬物療法の安全な取り扱いと適切な投与管理、副作用のマネジメント、不安を和らげる援助をしています。

医師・看護師・薬剤師・検査技師・臨床心理士等がひとつのチームとなり、患者さんが安心して治療を継続できるよう支援します。



▲ 第1外来受付



▲ 通院治療センター

施設認定一覧 [代表的なもの]

- 地域がん診療連携拠点病院
- 日本医療機能評価(3rdG: Ver.2.0)認定
- JCOG参加施設
- 国際規格「ISO15189(臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項)」の認定
- 臨床研修指定病院(協力型)
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
- がんゲノム医療連携病院

施設認定学会等

- 日本がん治療認定医機構
 - 日本消化器病学会
 - 日本消化器外科学会
 - 日本乳癌学会
 - 日本呼吸器内視鏡学会
 - 日本臨床腫瘍学会
 - 日本医療薬学会
 - 日本消化管学会
 - 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
 - 日本内科学会
 - 日本医学放射線学会
 - 日本泌尿器科学会
 - 日本呼吸器学会
 - 日本臨床細胞学会
 - 日本静脈経腸栄養学会
 - 日本病院薬剤師会
 - 臨床輸血看護師制度協議会
 - 日本血液学会
 - 日本病理学会
 - 日本婦人科腫瘍学会
 - 日本放射線腫瘍学会
 - 日本呼吸器外科学会
 - 日本整形外科学会
 - 日本消化器外科学会
 - 日本遺伝性乳癌卵巣総合診療制度機構
 - 日本内分泌外科学会
 - 日本消化器内視鏡学会
 - 日本外科学会
 - 日本麻酔科学会
 - 日本ペインクリニック学会
 - 日本頭頸部外科学会
 - 日本甲状腺外科学会
- (令和5年10月1日現在)

病院フロア案内 [混合病棟のため、主なフロアを記載しています]

7F ●	7階東入院病棟	7階西入院病棟
6F ●	6階東入院病棟	6階西入院病棟
5F ●	血液内科(無菌病床)・5階東入院病棟	通院治療センター
4F ●	4階東入院病棟	図書室・診療情報管理室
3F ●	手術室・HCU・事務局	
2F ●	第二外来・放射線内視鏡外来(検査を含む)・核医学検査・臨床検査(一般・細菌・病理・生理)・医療安全管理室・売店・レストラン	リハビリ室・研修室
1F ●	受付・採血・第一外来・地域医療連携室・がん相談支援センター・入院支援センター・薬局・放射線治療・栄養相談室・臨床試験支援室・キャッシュコーナー	緩和ケア科(病棟)・いたみ緩和センター

外来受診のご案内 [地域連携室]

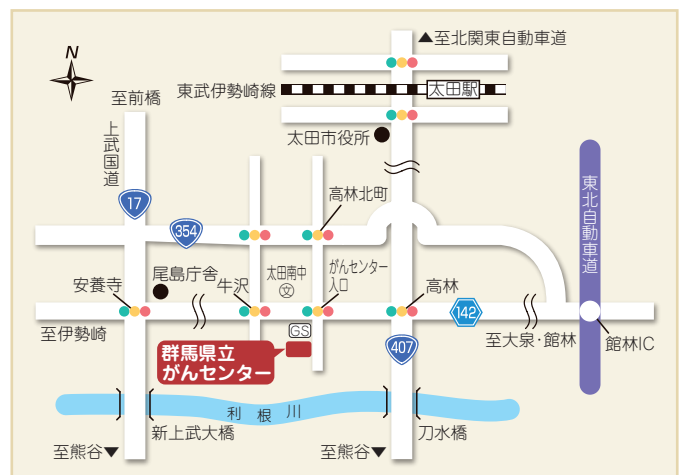
当院では、紹介予約制となっています。
 受付時には紹介状(診療情報提供書)をFAXにて送信いただくか、お電話にてご予約してください。
 また、再来の方も予約制となっていますので、事前に予約をおとりください。

- 電話受付時間** 平 日/午前9:00~午後5:00
土曜日/午前9:00~午後1:00
- 予約専用電話** 0276-38-0762
- 連携室FAX** 0276-60-0615
- 緩和ケア外来** 緩和ケア外来の受診を希望される方は“がん相談支援センター”へお問い合わせください。
直通電話: 0276-60-0679

〈診療日・受付時間〉

- 診療日** 月曜日から金曜日[祝日、年末年始を除く]
- 受付時間** 午前8:30~午前11:00
- 代表電話** 0276-38-0771

案内図 [電車・バスを利用される方]



- 東武伊勢崎線、太田駅下車 → シティライナーおおた(尾島線)約30分 県立がんセンター下車
- JR高崎線・上越新幹線熊谷駅下車 → タクシー約40分



放射線課

基本理念

- チーム医療の一員として患者様本意の医療を提供する。
- 専門分野を全うするため、研修に努めて技術研磨を行う。
- 経営効率を念頭に置き業務の見直しを常に実地する。

診断部

放射線診断部では一般撮影をはじめとして、X線透視・乳房撮影・CT・MRI・ガンマカメラ・PET-CT・IVR-CTなどの検査を主に行っています。

ワークステーションを用いて3D画像・フュージョン画像などを作成し診断や治療に役立つ情報を提供しています。

治療部

当院では、がん治療の3本柱のひとつである放射線治療を外部照射・内部照射・内用療法を病気の状態により選択し行っています。外部照射ではOBI(照射位置照合システム)の備わった放射線治療装置で、より高精度な治療が可能となっています。

また、腫瘍部分のみに放射線を集中して照射できる高精度な照射技術であるIMRT(強度変調放射線治療)を導入し、腫瘍制御率の向上や合併症の軽減に努めています。



▲ IVR-CT装置



▲ 3T MRI



▲ 放射線治療装置



▲ CT同室密封小線源治療装置

取得可能な 関連資格

- 第一種放射線取扱主任者
- 医療画像情報管理士
- 放射線管理士
- 放射線機器管理士
- 臨床実習指導教員
- MR専門技術者
- 核医学専門技師
- 検診マンモグラフィ撮影認定技師
- X線CT認定技師
- Ai認定診療放射線技師
- 血管撮影・インターベンション
専門診療放射線技師
- 放射線治療専門技師
- 放射線治療品質管理士
- 医学物理士 等



検査課

基本理念

- 検査技師としての基本精神を忘れず、向上心を持ち業務を行います。

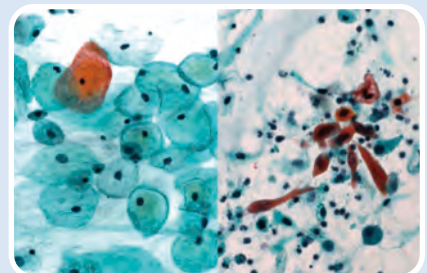
検査課は、主に検体検査、病理検査、生理検査の部門から構成されています。令和2年3月に国際規格ISO15189の認定を取得し、安心・安全な医療と信頼性のある精確な検査結果を提供できるよう取り組んでいます。病理検査では細胞検査士、生理検査では超音波検査士が、各診療科のカンファランスに参加し、診断・治療の情報提供及び解説を行っています。



▲ 生化学・免疫自動分析装置



▲ 細胞検査士によるスクリーニング



▲ 正常扁平上皮細胞(左) ▲ 扁平上皮癌細胞(右)

取得可能な 関連資格

- 細胞検査士
- 超音波検査士
- 認定輸血検査技師
- 認定血液検査技師
- 認定臨床微生物検査技師
- 認定病理検査技師 等



栄養調理部門

適切な「栄養管理」は、すべての治療の基盤です。
免疫力の向上や創傷の早期治癒など
治療効果を高めるためにとても重要です。

栄養管理業務とチーム医療を通じて、栄養療法の充実とおいしく安全な食事の提供を行い、疾病治療に貢献できることを目指しています。

NST（栄養サポートチーム）活動

患者さんの栄養状態が適切に保てるようお手伝いするチームです。
医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、
歯科衛生士、事務職員などが参加して、それぞれの専門知識や技術を
生かし、回診や症例検討を行っています。



▲ NST活動（症例検討）

食事の工夫あれこれ

毎日の食事を、おいしく楽しんで召し上がっていただけるよう心がけています。

■ 選択食…

一般食で希望される方に提供しています。

■ 個別対応食…

治療の過程で、食欲不振、味覚障害などの症状が出現した方には、
個別に食べやすい食事を検討します。

■ 行事食と誕生日クッキー…

四季折々の行事食と誕生日クッキーは好評です。



▲ 行事食（ひな祭り）



薬剤部

患者さんの薬に対する不安を取り除き、
安心して治療を受けられるようお手伝いします。

処方内容の確認と調剤

医師の処方した薬の量や使い方が適切か、処方された薬の飲み合わせに問題がないかなどをチェックします。外来患者さんに対しては医薬分業の観点から、院外の薬局で薬をもらっていただくよう、院外処方箋を発行しています。

抗がん薬の点滴の準備

抗がん薬の点滴は、安全キャビネットという特殊な装置内で調製しています。抗がん薬には重い副作用が出やすいものもあるため、投与量の確認には細心の注意を払っています。

抗がん薬の説明と副作用対策

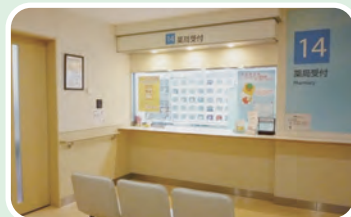
入院中および通院治療センターで抗がん薬により治療を受ける患者さんに対し、治療の初回に抗がん薬の副作用や注意点などについて説明しています。その後も副作用の状況を確認し、必要に応じて医師に副作用対策の処方提案をしています。他のスタッフとも協力し、患者さんの副作用を少しでも軽くし、治療を続けられるよう取り組んでいます。

医療用麻薬の管理

患者さんの痛みや苦痛を和らげるために使用される医療用麻薬の管理を行っています。



▲ 抗がん薬の説明と副作用確認



▲ 薬剤部窓口

がん専門薬剤師など、専門・認定資格を持った薬剤師が中心となり、有効で安全な薬物療法の提供に努めています。



看護部門

看護部の理念

- 私たちは、病院の理念と基本方針に基づき、思いやりの心で看護サービスを提供します。

特徴

- がん専門病院のため、がんの特化した看護の知識や技術を磨くことができます。
- 教育・研修制度が充実しています。
- 専門・認定看護師から研修や臨床を通して専門知識や技術指導が受けられます。
- 医師・看護師・コメディカルの多職種でチームを組んで活動しています。



専門・認定看護師

- がん看護及び精神看護専門看護師は、複雑な問題を抱えるがん患者さんやご家族及び地域の方々に、よりよい医療ができるよう活動しています。
- 緩和ケア、がん化学療法看護、乳がん看護、手術看護、感染管理、皮膚・排泄ケア、放射線療法看護、リンパドレナージュセラピスト等が各専門分野で活躍しています。



教育理念

- ① がんセンターの看護師としての責任と自負を持ち、看護実践ができる看護師を育成する。
- ② がん看護実践に強い看護師を育成する。

新人オリエンテーション研修風景



▲ 静脈注射

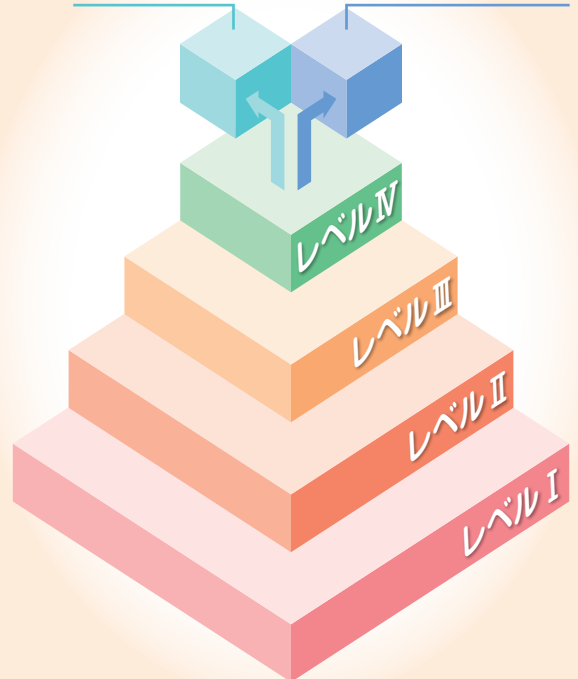


▲ 移送介助



▲ 防護用具の装着方法

看護管理者
がん看護
スペシャリスト



先輩のメッセージ



新人教育制度が充実していて必要な知識と技術を段階的に学ぶことができます。日々の業務は忙しいこともありますが、患者さんの笑顔にとてもやりがいを感じます。職場の雰囲気も良く、スタッフ同士で声を掛け合い協力して日々の業務を行っています。



緩和ケア病棟 (平成26年6月開棟)

病棟理念

- 貴方の尊厳を守り貴方らしく過ごせるよう
私たちは最善を尽くします。

患者さんとご家族が穏やかな時間を過ごせるようさまざまなお手伝いをさせていただきます。

全人的苦痛の緩和

患者さん、ご家族が穏やかに自分たちらしく生きることができるよう様々な専門職がチームとなって全人的苦痛を緩和するためのケアを提供します。

日常生活支援

患者さんとご家族にとって最高のQOL（クオリティ・オブ・ライフ=いのちと生活の質）が実現できるように支援します。

地域における継続的な支援

住み慣れた地域で生活できるように、地域と連携して退院後も継続的な支援を実施します。

地域の緩和ケア推進

地域全体の緩和ケアの充実を目指し、地域とのネットワークの構築や教育・研修活動を推進していきます。



▲ 緩和ケア病棟



がん相談支援センター

ひとりで悩まないで、
がん相談支援センターに
お越しください。

相談支援

がんに関わるすべての相談窓口です

相談員（看護師・社会福祉士・精神保健福祉士）が、面談もしくは電話で、平日9時から17時に対応しています。

- 療養生活に関する相談
- 転院・退院に関する相談
- がんの治療に関する一般的な情報の提供
- がんの予防やがん検診に関する一般的な情報の提供



- 医療費に関する相談
- 就労に関する相談
- セカンドオピニオンに関する相談
- ゲノム医療に関する相談

心理ケア

がんに関わるこころのつらさをケアします

心理士（公認心理師・臨床心理士）が平日に対応しています。担当医・看護師・相談員が必要と判断して、ご本人のご希望がある場合に、日時をお約束して面談室でお会いしています。

- がん判明に伴う気分の落ち込み
- 先行きに対する不安
- 考えごとによる不眠
- 大切な人と別れる悲しみ

